

しのぶ草



平成 25 年 7 月 17 日 発行

発行：宮崎市教育委員会文化財課

宮崎市きよたけ歴史館

所在地：宮崎市清武町加納甲 3378-1

TEL 0985-84-0234 FAX 0985-84-2634

《来館者のご紹介》



●5月24日、清武小学校の6年生117名が、ウォークラリー形式の遠足で来館しました。児童たちは、館内や安井息軒旧宅で、設問に答えようと展示物の説明書きを一生懸命読んだり、当

館の職員に質問したりして、自ら進んで学習していました。

●加納小学校の4年生151名が、総合的な学習の時間の「地域とふれ合おう、見つめよう」の調べ学習で6月4日と7日に分かれて来館しました。安井息軒先生についての説明に耳を傾けながら熱心にメモを取ったり、説明を聴いた後、進んで質問をしたりしていました。



清武小学校の6年生、加納小学校の4年生共に、熱心な学習振りに大変感心させられました。当館での学習を今後の学習に大いに生かしていってもらえることと思います。

《職場体験学習》

6月26日から28日までの3日間、加納中学校の2年生4名が、当館で職場体験学習を行いました。1階の埋蔵文化財センターで、発掘された土器片の拓本をとる作業などをしました。職場体験学習を終えて、「本物の土器片を手にして感動しました。」「目に見えない所で大変な作業があることが分かりました。」「ここでないとできない経験ができてよかったです。」

「働くということが実感としてよく分らなかったが、少しわかったような気がします。」などの感想を話してくれました。3日間一生懸命作業をしている生徒たちの姿や感想に、頼もしさを感じた次第です。



《宮崎の縄文遺跡紹介①》

縄文前期（アカホヤ火山灰被災直後）の宮崎平野

約6300年前に海底火山である鬼界カルデラの噴火によって宮崎平野部は甚大な被害を受けたことや、このとき降り積もった火山灰をアカホヤと呼び、この火山灰層を鍵層として遺跡から出土する遺構や遺物のおおよその年代がわかるということをお話しました。

では、アカホヤ火山灰の降った直後の宮崎平野部の遺跡の状況はどんなだったのでしょうか。縄文早期には、清武川流域には80以上の遺跡が存在していたのに対して、縄文時代前期前半に使用されると考えられているとどろきびしき 轟B式土器が出土する遺跡は5遺跡しかなくなってしまっています。しかも、早期の遺跡ではたくさんの遺構と遺物が見つかったのに、轟B式土器自体は1つの遺跡からは少ししか見つかりません。アカホヤ火山灰のダメージがかなり大きく、人々の生活がまだ回復できていなかったことがわかります。

前期の後半に使用されたと考えられるそばたしき 曾畑式土器が出土する遺跡は清武川流域で25遺跡ほどに増えて、遺構も少々発見されていますので、このころには集落



轟B式土器(左)と曾畑式土器(右)

が少しは回復しているということがうかがえます。

曾畑式土器は、工具を使用して土器の表面に幾何学的な文様と粘土の中に滑石がたくさん混入していることが特徴で、滑石の多く取れる西北部九州を中心に発達した土器といわれています。これらのことから、アカホヤ火山灰で南九州の縄文集落が壊滅的なダメージを受け、自然環境が少しずつ回復したころ、北部九州から南九州へ移動してきた人々によって集落が築かれていったことが推測されています。

(文責 秋成)

★ 講座等のご案内 ★

- ◆ きよたけ歴史講座④
日 時：平成25年8月3日(土) 午前10時～正午
講 師：清武町史編纂専門委員 長友 禎治 氏
内 容：「近世の清武」

- ◆ 夏の展示 「清武のこどものための年中行事」
期 間：平成25年7月27日(土)～8月25日(日)
清武町に伝わる「亥の子もち」など、楽しい年中行事を紹介します。

※どうぞお気軽にお越しください※